

V. 特記事項

■教職員・学生と学長のコミュニケーション

いかなる組織にも妥当するであろうが、構成員間の意思疎通、特に管理的立場にある者と所属メンバーとの緊密な相互理解が当該組織の円滑な運営に欠かせないことは言うまでもない。福山大学では、次の幾つかの機会を設けて、その実現に努めている。

まず、毎月上旬の月曜日、教職員が繰り合わせるのが比較的容易な夕刻に学長のオフィスアワーを設け、来室する教職員との懇談や運営万般に関する率直な意見を聴く機会としている。教員の来室が多数を占めるが、職員や稀に学生も来室し、日頃見落としていた事柄に気づかされることも少なくない。オフィスアワー以外にも、学長としてほかの用務で塞がっていない時間帯には、随時来室を歓迎する旨を事あるごとに伝え、実践している。

第二に、対象を学生に絞った活動として、毎年12月に参加者の人数に合わせて数日にわたり、学生からの意見を聴く会を別に設けている。茶話会形式のくつろいだ雰囲気同会には、時間の調整が可能な限り副学長、事務局長等も同席し、特に施設・設備の改善要望や教学・課外活動に関する要望を聴取している。要望内容は正式の記録として残し、即刻対処可能な事柄はもとより、具体的かつ適時に対応措置を講じている。

第三に、毎月1日に「学長短信」と称するメッセージを全専任教職員にメール発信している。教育に対する自身の考えばかりでなく、本学内外で起こる種々の事象についての時評、各分野の専門家の見解の紹介とそれへのコメント等、諸々の話題を取上げているが、

「学長短信」は大学ホームページにも掲載している。このほか、「日替わり」状態で各部局から投稿され、学内の出来事を知る最適なツールと言っても過言でない「FUKUDAI Mag」の末尾に載せる「学長から一言」も、構成員との往還の貴重な機能を果たしている。

■グローバル社会で中核人材として活躍できる学生の育成（国際交流と留学生受入）

本学では外国人留学生の受入れとして、大学間交流協定に基づく交換留学と日本国内及び日本大学連合学力試験(JPUE)を利用した海外での留学生選抜を実施している。外国人留学生は本学卒業後、本学や国立大学の修士課程等へも進学している。近年、日本での就職を希望する留学生が増加しており、昨年10月に本学が提案した「備後・安芸圏域留学生就職・定着促進教育プログラム」が文部科学省から留学生就職促進教育プログラムとして認定され、令和7(2025)年度から実施予定である。日本人学生の海外派遣支援として、協定大学への交換留学、短期語学研修、学科主催の海外研修に対して奨学金を支給している。このような日本人学生の海外留学機運を醸成し、国際社会で活躍するために、共通教育に「国際化と地域創生」を提供している。この授業では海外で活躍する卒業生・専門家によるZOOMでの講義を実施している。海外の32大学と学術・学生交流協定を締結している。令和4(2022)年度と令和5(2023)年度に科学技術振興機構のさくらサイエンスプログラム(SSP)に採択され、タイの2大学とインドの1大学から合計25名を招へいした。本学の国際化の目標は、①外国人留学生を全学生の5%程度にまで増やす。②日本での就職を希望する留学生に対して就職支援を行う。③協定校を今以上に増やす努力を続けるとともに、SSPを毎年1~2プログラム程度運用して、教育・研究の国際化を推進する。このような組織的な活動を通して日本人学生の海外渡航意識の醸成を図り、④今以上に多くの学生が長期・短期の海外留学に赴くようにすることで、本学の日本人学生の国際展開を促進する。